

【主題】教師の「学ぶ意欲」を高めるための支援のあり方についての研究

【副題】草津市におけるスキルアップ支援事業が受講者のメタ認知の育成と self-esteem の向上に及ぼす効果

【学校・団体名】

草津市立教育研究所

【役職名・氏名】 スキルアップアドバイザー 山崎 賢

1. 問題と目的

小学校では平成 30 年より全面実施されている学習指導要領も 7 年を経過し、学校現場では様々な工夫をしながら授業実践を行い、研究も進められている。さらに、1 人 1 台のタブレット端末を活用した効率のよい協働的な授業が展開されている場面を見ることが多い。しかし教員の多くは、増加した教科書の内容を確実に指導しなければならないという意識も依然として強く、新しいという名の画一的な 1 時間単位の授業展開での教科書中心の授業や、対話的な学習と言いながらも先生が持っている答えを見つけさせることをゴールとしたような授業も依然として少なくない状況である。このような現状について奈須 (2024) は「1 単位時間のスタンダードの提唱が盛んである。確かに一理あるが、そもそも授業は単元で構想し、展開するものである。」と指摘する。

また、目先の指導内容を如何に限られた時間内で教え切るかということになりがちになっているのは、授業とはこういうものという教師の持っている固定的な授業観の影響が大きい。田村 (2015) は、「授業をする側の（変わらなければならないという）意識の変革がなければ、授業する側のイメージ（教師自身が子ども時代に体験した授業）を再現する傾向に陥りやすい」という。

しかし、変わらなければならないという意識はあっても、どこを、どのように変えていけばいいのかという具体的なイメージがあるわけではないのも現実である。溝上 (2018) は、「アクティブ・ラーニング型授業は、多くの教師がイメージを作れるほどの経験を持ち合わせていない」、さらに「〇〇はこういうものだというメンタルモデルを変えるのは難しいが、それを変えなければ人の行動は変わらない」という。そのためにどのように意識を変革する場を作っていくのかは学校現場や、研修担当者に課せられた大きな課題である。また、仕組みや方法だけでなく、教師自身の「学ぶ意欲」をどう育成するのかも大事な視点である。その中でも特に、中教審の答申 (2024) において「(教師に

共通に求められる知識技能というレベルを超えて強みを伸ばすことが必要」と述べられているように、教師自身が授業・学級経営を通じて自分自身の状況を肯定的に自覚（メタ認知）し、強みを伸ばそうとすることが、学ぶ意欲と授業観の転換に影響し、さらなる教師としての成長につながるものと考えられる。

そこで、草津市で行っているスキルアップ支援事業の直近 2 年間の実践を取り上げ、この支援が受講者のメタ認知の育成に及ぼす効果について考察を行う。また、自己の強みを伸ばす方向でのメタ認知には self-esteem の影響も大きい。そこで、この支援事業が受講者の self-esteem に及ぼす効果についても分析し、その成果と課題を明らかにすることで、教師の学びの支援のあり方についての方向性を探ることを目的とする。

2. 草津市のスキルアップ支援事業について

草津市では、教育研究所内にスキルアップアドバイザーを配置し、市内小中学校の受講対象者（小学校 14 校、中学校 6 校 計 50 名程度／年）に対して 2 名のアドバイザーが担当し、1 人当たり年間 5 回の訪問を行い、授業観察・懇談を中心に授業づくり・学級づくりについての個別支援を行っている（1 回目は通常授業、2 回目は先輩授業の参観、3 回目は指導案検討、4 回目は研究授業として実施、5 回目は通常授業）。対象教員のここ 10 年間の経験年数別の割合平均は、新規採用後 2～3 年目の教員が 40.5%、年間臨時講師が 27.8%、経験年数が 4～10 年目の教員が 25.0%、11 年目以上の教員が 6.7%、平均年齢は、28.1 (SD=0.65) 歳 n=591 であった。

3. 研究の仮説

スキルアップ支援事業において、視覚支援を中心とした支援資料の活用と、受講者が自らの強みと自分自身や子どもの成長に気付けるような支援を続ければ、受講者自らのメタ認知の育成と self-esteem の向上に効果的な影響を及ぼし、より一層学ぶ意欲を高めるこ

とにつながるだろう。

4. 研究の方法

(1) スキルアップ支援事業で使用した支援資料が、受講者の「メタ認知の育成」にどのような点で効果があるのかについて検証する。また、現在の形の支援資料を使用する前の2年間（令和3, 4年度）と使用後の2年間（令和5, 6年度）でどんな違いがあるかについても比較分析する。

(2) スキルアップ支援事業が受講者自身の self-esteem に及ぼす影響について分析し、今後のこの支援事業のあり方について検討する。

5. 結果と考察

(1) スキルアップ支援事業で使用した支援資料がメタ認知の育成に及ぼす効果について

授業参観後の懇談では、平成5年度より授業記録と支援資料を使って具体的な場面を想起しながら支援を行った。(訪問2回目の支援資料は同じ参観者複数で活用、3回目は指導案検討のため使用せず。年間で計約90部作成)

授業記録については、授業の進行に合わせて先生の発問や指示とともに、子どもの発言やつぶやきなどをできる限り具体的に記録し、その場面を想起しやすいように必要に応じて写真を撮影し、授業記録の中に配置するようにした。（なお、授業記録の作成には iPad および Goodnote 5 を使用した。）その例を（図 1）に示す。また、同時進行としてグループ活動や特徴的な場面については動画を撮影し、懇談時に見ながら子どもの発言や思考がどのように変わっていったのか等についても話し合うための材料とした。

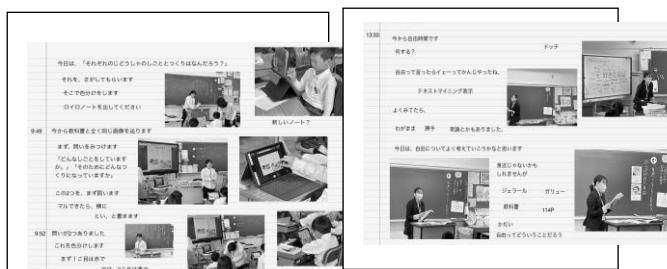


図1. 授業記録例

支援資料については、訪問する回ごとに意識付けるポイントを変えながら示し、(図2)のように対象者自身が自分の成長を自覚できるような配慮をした。また、1時間の授業についてだけではなく、日頃の指導の成果や教室経営などについても文字表記で示し、受講者

自身が後からでも振り返れるようにした。さらに、最終（5回目）の支援資料では、先生自身の強みや子どもの成長の姿についてもできるだけ具体的に記述した。

授業をつくる

成長する教師

図2. 支援資料例

この資料を活用した支援について受講者がどのように受け止めたかについて、令和5年度、6年度末アンケートにおける自由記述を分析した。その記述からは、写真付きの記録や動画が自己の授業を客観的に自覚するのに役立ったことや、授業改善や日常指導の改善に向けて見通しを持つことに繋がったという記述が多く見られた。その中からいくつかを(図3)に示す。

(※掲載文章は原文のまま。_____は授業記録および動画、_____は支援資料に関する記述。いずれも下線は筆者)

- ・授業を見ていたいた際、授業記録を写真入りでとっていたので、後で自分の発問や授業の展開、子どもの反応などを確認することができました。授業のフィードバックもしていただき、自分の課題を確認することができました。(R5 2年目)
 - ・授業記録を写真つきでまとめてくださり、自分の授業を見返すのに非常に役立ちました。自分の強みと課題を明確に項目立て、毎回統合本で渡してくださったのも、非常に見易く分かりやすかったです。(R6 2年目)
 - ・授業を見て、指導をいただけることがありがたかったです。授業後には、毎回、成果と課題についてていねいに指導していただき、自分の気が付かなかった授業での良さや、今後より授業を充実させるために必要な点が分かり、励みになりました。(R6 2年目)
 - ・自分が授業をしている写真や動画を残してもらえたことが自分を客観視できる良い機会になった。後ろから見ると前を向けていなく、児童もあり、もっと机間指導や声掛けの仕方をを考えないといけないと思った。(R6 2年目)
 - ・初めての高学年で、ICT活用授業開発など道筋どころが多かった中、スキルアップで授業開発の仕方やICTの使い方などについて私自身が行った授業から教えてくださり、とてもありがたかったです。特に授業の発問や言葉遣い、写真や動画を見せてくださって、授業のことをしつかりと語りかけることができました。(R6 4年目)

図3. 受講者の記述例 (1)

このように、授業記録にその時の写真を掲載することで、よりその場の様子を想起しやすくなり、自分の授業についてのメタ認知がしやすかったと考えられる。

次にこのことの有効性を確かめるために、授業記録と支援資料を使用する前と使用した後で、受講者の受け止めに違いがあるのかについて、自由記述に表れるワードをもとに比較を行った。比較にあたっては、この2つの資料を使う前（令和3,4年度 計49名）と、使った後の支援（5,6年度 計47名）の受講者全ての自由記述についてテキストマイニングでワードクラウドを作成し、出現するワードを比較した。（テキストマイニングには、『USERLocal AI テキストマイニング ([URL:textmining.userlocal.jp/](http://textmining.userlocal.jp/))』を使用した）。その結果、記述全体のワードクラウドでは、いずれも共通して「①ICT ②授業 ③スキルアップ ④ありがとう／ありがたい ⑤いただく／いただける」が頻出ワードとして上位に検出された。しかし、この5つのワードは、この事業の特性上出現しやすいワードや丁寧語などであるため、この5つのワードを除いて再度ワードクラウドを作成して比較した（図4）。



図4. ワードクラウド比較

これを見ると、いずれも「発問」というワードが最も多く表出されているが、その他では令和3, 4年度では「生(活)かせる」「客観的」「学ぶ」などのワードが多く、令和5, 6年度では、「振り返る」「見やすい」「わかりやすい」などのワードが多く表出された。そこでさらに詳しく分析するために単語分類で2つの文章を比較した(図5)。



図5. 単語分類比較

ここでは、令和3,4年度に比べて令和5,6年度によく出る言葉としては、「気づく」「分かる」「分かりやす

い」「つながる」「役立つ」などの理解に関わる言葉が多くかった。一方、5,6 年度だけに出現するワードとしては、「分かりやすい」「見やすい」など言葉の他、「心強い」「成長」「向ける」「広がる（広げる）」など、今後の実践への意欲に関するワードが示された。この結果から、2 つの支援資料が受講者のメタ認知と学ぶ意欲の育成に影響を及ぼしている可能性が示唆された。

（2）スキルアップ支援事業が教師自身のself-esteemに及ぼす効果について

受講者のどのような点でのメタ認知が受講者のself-esteemの向上に関与し、さらなる学ぶ意欲の向上につながっていくのかについて、令和5, 6年度の受講者の記述から検討した。その結果、以下の2つの側面で特徴的な受け止めがあることが確かめられた。

①自分の強みや指導の成果に気づくことで、自信になり授業改善への意欲につながった

指導や支援というと、どうしても課題の指摘や改善点の指導になることが多い。しかし、この支援事業では受講者に「自分の良さや強み」「子どもの成長」について文字や言葉で示すことを大事にした結果、受講者が自分の自信になったと受け止めている様子が伺える。いくつかの記述例を(図6)に示す。(原文のまま。下線は筆者)

- 良いところも悪いところも言ってくださるので、励みにもなり、改善すべき点も分かりやすかったです。(R5 9年目 市外より)
 - 自分に足りないところだけでなく、よかったですも教えていただいたのがよかったです。意識していくかったことなどもあったが、助言いたいで自信につながったところもあった。他の先生の授業も見れたのがよかったです。(R6 6年目 市外から)
 - 授業後には、毎回、成果と課題についてていねいに指導していただき、自分の気づかなかった授業での良さや、今後より授業を充実させるために必要な力が分かり、励みになりました。(R6 2年目)
 - 授業を通して、私の強みと課題を分かりやすく教えていただき、何を磨いていけばいいのか考えることができました。また、子どもたちの成長も客観的にみてくださったので、自分では気づかなかった子どもの成長を知ることができました。掲示物や子どもの様子等から、学級経営の成果についても教えていただき、今後の励みになりました。(R6 2年目)
 - 学期ごとに授業を見ていただくことで、自身の成長や強み・弱みに気づくことができた。また、あまり得意ではないICT機器の活用を取り入れようという意欲につながった。(R6 4年目 市外から)

図6. 受講者の記述例(2)

②不安を解消し、安心して実践に向かう意欲を高める
ことにつながった

授業づくりについての支援が中心ではあるが、それ以外にも日頃の不安感の解消につながったという記述も多く見られた(図7)。また、経験年数の多い教員からもこのような内容が表出されていたのも特徴的であった。

受講者の記述からは、この講座によって改めて自分自身の授業観の傾向に気づき、改善への意欲を高めている様子が伺える。もちろん、教育委員会主催の研修や各学校での自主的な研修も行われているが、授業を参観した教師が感想を述べるだけになっていたり、教育委員会の指導主事の指導助言で終わっていたりするということも少なくない。もちろんそのときは理解したつもりでいても、実際に授業観を変えるところになかなかつかない。今井(2024)は、「相手が『わかった』かどうかは、その人はどういうスキーマをもって聞いているかに依存する」という。つまり、個々の教師自身が別々のスキーマをもって研修に臨んでいても、自分の考え方(授業観)の傾向の偏りに気付くことは難しいだろう。その点でも、個別に年間を通して5回の支援を得られる場合は、受講者の授業観や学ぶ意欲に与える影響は大きいと考えられる。

- ・担任の気持ちに寄り添ってお話をしてください、非常に心強かったです。私への体調の心配もしていただきました。生活面でのアドバイスもしていただいて、とても助かりましたし、支えになりました。(R5 臨時講師)
- ・ベテランの先生方に授業を見ていたいたり、アドバイスをいただける機会はなかなかないため、放課後に少しお話しできるだけでも気持ちが前向きになったり、困っていたことを解消できるきっかけになりました。面談があつて良かった。(R5 2年目)
- ・久しぶりに学級担任を担当させていただくことになり、いろいろな相談にも乗っていただきありがとうございました。(R5 18年目 管外より)
- ・スキルアップアドバイザーの先生には、本講座のことだけでなく、旦那不安に思つてることや他の教員には話せなかつたことが相談でき、安心して仕事に向かえた。教材研究について、ICT機器を効果的に活用することに対する視野が広がり、アイデアが湧く機会になった。他の中学校で行われた実践や使用器具を紹介していただき、新しい知見を得ることができた。(R6 11年目 市外より)
- ・自分が気になることや分からないことに柔軟に対応して一緒にになって考えていただきでの助かりました。(R6 2年目)
- ・授業をする中で、きっちり、みんなが分かるまでやらせないと、と言う思いが強いあまり、リズム感のある授業の進行ができない沂所を指導教員に指導していただきました。授業の進め方に自身の焦りや悩みがありました、少し気持ちが楽になりました。(R6 臨時講師)

図7. 受講者の記述例(3)

メタ認知が授業観の転換と学ぶ意欲の向上につながるためにには、教師自身の self-esteem の高まりは大事な要素である。前述の内容からも分かる通り、経験年数が多くても授業実践や学校内での振る舞い等に対する不安が高い様子が伺える。その不安の解消のための一つの場として、スキルアップ支援事業が少なからず寄与しているのではないだろうか。特に経験年数を重ねると、不安な気持ちを同僚や管理職などに打ち明けることに躊躇することも増えてくる。その点、スキルアップアドバイザーのように外部のものに対して思いを話すことで、安心感を得られることも多いと考えられる。小沼(2022)は初任者の拠点校指導教員の役割として「メンターとしての役割の認識」をあげているが、2年目以降の教員や臨時講師にとっても、このよ

うな役割を担う立場の人が必要とされているといえるだろう。

6. 成果と課題

この研究から、スキルアップ支援事業が教員のメタ認知の育成と self-esteem の向上に寄与している可能性が示唆された。その際、自らの強みや子どもの成長の姿、また指導の成果を客観的に文字表記で示すことの有効性や、日頃の不安な気持ちを話せる(支援者が聞く)場を作ることが、結果的に学ぶ意欲の向上につながっている可能性も示された。

このことから、教師の「学ぶ意欲」の育成のためには、一般的な全体研修だけではなく、個人個人の悩みや学ぶ意欲に応じた支援を継続的に行える研修の機会がますます求められているといえるだろう。そのための一つとして取り上げたスキルアップ支援講座のような取組が、他市町にも広がっていくことを期待するところである。

今後は、支援資料の内容などもさらに改善しながら、受講者の学ぶ意欲の向上のためにより効果的な支援のあり方について、詳細な分析をすすめる必要がある。また、受講者との丁寧な対話を通じて汎用的な授業改善の具体的なイメージ作りにつながるようなコンサルテーションの進め方についても明らかにしていきたい。

引用文献

- 今井むづみ(2024)「何回説明しても伝わらない」はなぜ起るのか? 日経BP
 小沼 豊(2021)拠点校指導教員の指導・助言に関する一考察 日本学校心理士会年報第14号 P90-99
 澤井陽介(2017)授業の見方~「主体的・対話的で深い学び」の授業改善 東洋館出版
 田村 学(2015)授業を磨く 東洋館出版
 中央審議会答申(2024)初等中等教育における教育課程の基準等のあり方について(諮問)
 奈須正裕(2024)内外教育卷頭言 2024年12月10日号
 溝上慎一(2018)アクティブラーニング型授業の基本形と身体性 東信堂

参考文献

- 榎本博明(1997)自己開示の心理学的研究 北大路書房
 梶田叡一(1998)自己意識の心理学(第2版) 東京大学出版会
 山崎賢(2000)児童の自己開示がself-esteemに及ぼす影響について 滋賀大学大学院教育学研究科修士論文